

豊後高田昭和の町地区

(大分県豊後高田市)

計 画 期 間 平成 18 年度～22 年度

面 積 83.5ha

交付対象事業費 1,536 百万円

市人口 24,461 人 (地区内人口 2,972 人)

ポイント

弱みを強みへ転換!!昭和 30 年代をテーマとした魅力あふれるまちづくり・にぎわいづくり

地区概要

商店街の再生に『観光振興』という要素を取り入れソフト・ハード整備を一体的に進め、まちのにぎわい・魅力を高めていく

目 標 豊後高田昭和の町として、地域文化の再生と創造により持続可能な交流を生み、市全体の活性化を図る

指 標 商店街における個店整備、商店街の中に取り残された既存施設、商店街の中に架かる老朽化が進む橋を『昭和 30 年代』という統一テーマで整備し、相乗効果をねらった目標の実現をめざしている。

来訪者数	249,392 (H16)	336,600 (H22)
空き店舗解消率	2 (H15)	22 (H22)
人口の定着	3,079 (H17)	3,079 (H22)
まちの魅力度	3 (H17)	4 (H22)

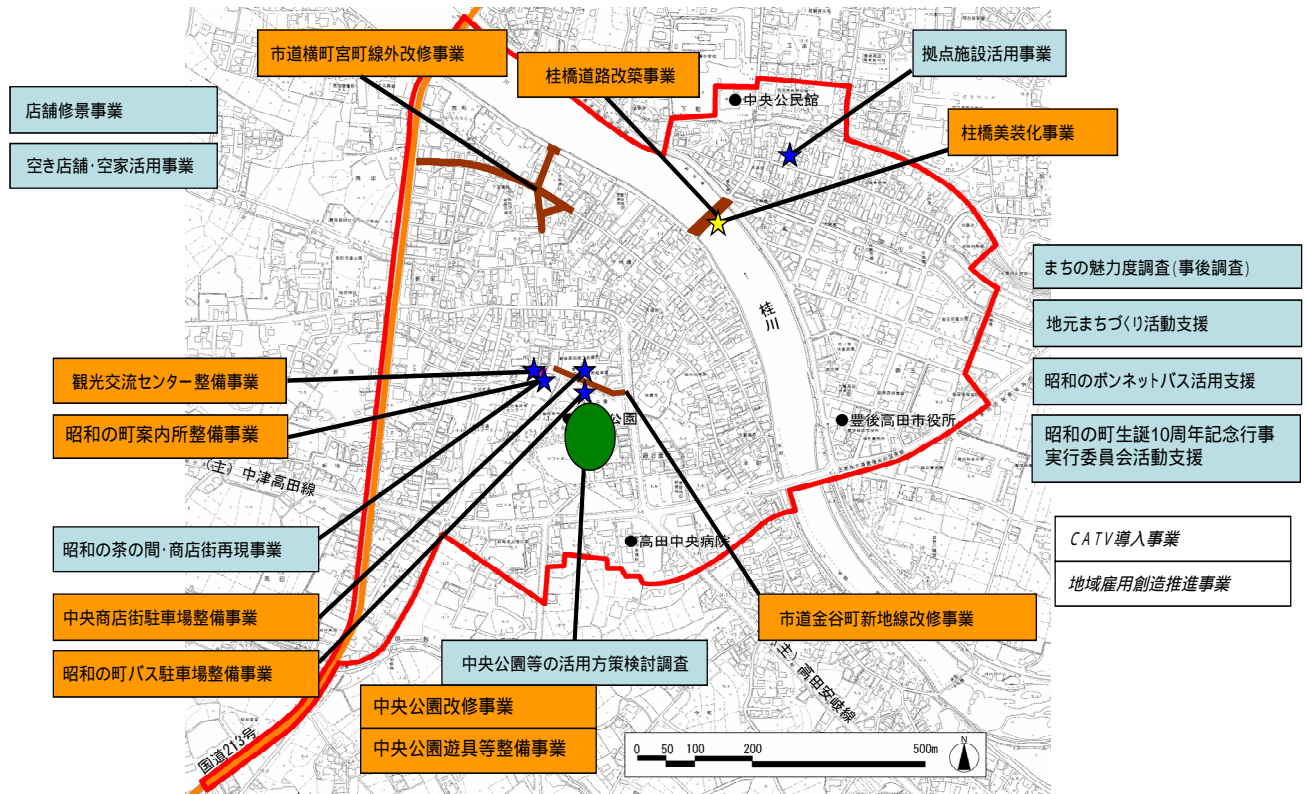
事業内容 基幹事業 (1,303 百万円)

道路 (桂橋改築 延長 84.8m ほか) 公園 (中央公園改修 面積

2.2ha) 昭和の町案内所、観光交流センター (昭和の夢町三丁目館)

提案事業 (233 百万円)

店舗修景事業、空き店舗・空家活用事業、昭和の茶の間・商店街再現事業 (昭和の夢町三丁目館) 拠点施設活用事業 (高齢者交流施設)



地区の現況と課題

本地区は、かつては国東半島の商業拠点として賑わいをみせていたが、昭和40年代以降、時代の潮流を乗りきれず、衰退の道をたどり、ついには人通りよりも“犬や猫の方が多い”と言われるようになった。古いまま時代に取り残された商店街にかつての元気を取り戻そうと、商店主・商工会議所・行政の三者が一体となって、その古さを逆転の発想で生かした『豊後高田昭和の町』の取組を平成13年度からスタート。年間30万人を超える観光客が訪れ、小さな市に『奇跡』が起こっている。今後も、昭和の町を形成する店舗の拡大、ソフトとハード整備を進めることにより、観光客の一層の増大を図る必要がある。

基幹事業の特徴

わたってみたい桂橋の整備

昭和の町のシンボルとなる“昭和の町にマッチした”桂橋を整備。

中央公園の改修

親子が楽しく過ごせるような芝生広場とコンビネーション遊具、野外ステージ・イベント広場を備え、災害時の防災機能も拡充。来街者駐車場整備と合わせ、市民にも観光客にも愛される公園に整備する。

観光交流センターの整備

昭和ロマン蔵“北蔵”を活用して新たな拠点施設を整備
(提案事業を活用し複合的に整備)

提案事業の特徴

昭和の夢町三丁目館の整備

新たな観光交流拠点として、昭和ロマン蔵“北蔵”に、昭和30年代の民家、商店等を再現。朝・昼・夕・夜と変化する昭和の風景を眺めながら懐かしいあの頃を観光客に体感してもらう。

(施設の機能ごとに、基幹事業と提案事業とを複合的に実施)

店舗修景事業

時代に取り残された商店を生かし、昭和30年代の趣ある商店へ再現するため、店舗等の前面に係る看板、建具等を改修。

さらに、昔懐かしい“お宝”を店先に展示する施設整備も同時に行う。

昭和のボンネットバス活用支援事業

昭和の町の新たな魅力ツールとして導入したボンネットバスを活用し、観光客のための周遊観光、イベント等の事業に対して支援を行う。

計画策定プロセス

協議会

地内の各分野の代表者等から構成する協議会を立ち上げ、地域のまちづくりについて、地域が自ら主体的に検討を重ねてきた。

まちづくり交付金をさらに活用する取組

平成19年5月28日に内閣総理大臣の認定を受けた『豊後高田市中心市街地活性化基本計画』と連携し、まちづくり交付金の平成21年度制度拡充のメリットを生かすなど、さらなる事業活用に取り組んだ。

他省庁の支援措置を有効活用した取組

厚生労働省の委託事業である地域雇用創造推進事業「続・昭和の町づくりによる“キラリ”と光る雇用創出大作戦」として、本地区で高齢者が集う仕掛けづくり、農業等と連携した人材育成等のメニューを3年間に渡り実施。地域雇用の創出を図るとともに、まちづくり交付金事業で実施する事業と連携し、より高い相乗効果をめざす。



改築後の桂橋（イメージ図）



中央公園（コンビネーション遊具）



昭和の夢町三丁目館



昭和のボンネットバス活用支援事業